

「スピーキングテスト終わる」

一昨日、スピーキングテストE S A T - Jが行われた。英語の4技能のうち「話す力」をみるもので、都立高校の入試の一部としても、点数化され入試得点に組み込まれる。今回、都内の公立中学3年生の95%にあたる約7万6千人が申し込んだ。そのうち、6万9千人が受験した。会場は高校や民間会議室など197か所で、本校の生徒は文京区にある都立向丘高校が指定された。試験時間は15分程度。1人ずつに配布されたタブレット端末に表示される文章やイラストを見ながら、英文を読み上げたり、自分の意見を英語で述べたりする。なお、体調不良等で欠席した生徒には別日に追検査が設けられている。

テストは都教育委員会と一般企業が共同で作成し、委託を受けたその会社が運営している。録音された解答は、英語が公用語の一つのフィリピンに送られ、大学学位などを持つ現地スタッフが2人1組で採点するという。20点満点で、来年2月に行われる都立高校入試の学力に基づく1次選抜の際、学力検査700点と調査書300点の計1000点に加算し、1020点満点で合否を判定する。

テストを受けた3年生に尋ねたところ、会場も異なり、かなり緊張したようだ。さらに、都立高校の入試にも使われるので、入試を受けているような気にもなる。後輩へのヒントとしては、日頃の授業できちんと発音することも大切だし、「絵を見て、それを英語で説明できる」「日頃の生活の中で、英語を使ってみる」ようにすれば、かなりできるのではないかとアドバイスしてくれた。

グローバル化の進む社会で英語を「話す力」の重要性は増しており、かつて読み書き中心だった英語の授業は変わりつつある。ある中学校の英語教員は「普段の授業でやっていることが、都のスピーキングテストでも役に立つ。スピーキングテストがスピーキングを練習する動機づけにもなっている」と話す。日頃の英語の授業の中で、生徒の皆さんは恥ずかしがらず、英語で話せるように声を出そう。それはテストのためではなく、将来の進路選択を広げることにもつながる。

11月29日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 高校生のA君は、現在いくらかのお金を持っていて、昼食代として母親から毎日一定のお金をもらいます。毎日500円のランチを食べると30日でお金がなくなり、毎日350円のランチを食べると60日後に手元に6000円残ります。A君が現在持っているお金はいくらですか。